

A

こうした全体像を俯瞰的に把握していくことが重要です。人間活動による地球システムへの様々な影響を客観的に評価する方法の一例として、地球の限界（プラネタリー・バウンダリー）という注目すべき研究があります。この研究によれば、地球の変化に関する各項目について、人間が安全に活動できる範囲内にとどまれば人間社会は発展し繁栄できるが、境界を越えることがあれば、人間が依存する自然資源に対して回復不可能な変化が引き起こされるとされています。

気候変動

生態学的上限

海洋の酸性化

新規化学物質

窒素とリンの負荷

淡水の利用

土地の改変

生物多様性の喪失

大気汚染 ※未計測

オゾン層の破壊

社会的基礎

健康

教育

収入と仕事

平和と正義

政治的発言力

社会的平等

男女平等

住居

ネットワーク

エネルギー

食料

水

超過

不足

図1 「ドーナツ内での生活」(プラネタリー・バウンダリーとソーシャル・バウンダリー)

(令和5年版 環境・循環型社会・生物多様性白書より抜粋，一部改変)

以下に記入すること

B

非公開

【裏面につづく】

以下に記入すること

非公開

(1) A と B の 2 つの文章について、解答用紙の範囲内でそれぞれ批判的に論評しなさい。

(2) (1) で解答した批判的論評を前提として、プラネタリー・バウンダリーとソーシャル・バウンダリーの両立について、あなたの考えを解答用紙の範囲内で論述しなさい。

(解答欄は次の用紙にあります)

以下に記入すること

小論文	受験 番号	
-----	----------	--

(1) 解答欄 (30 行)

	1
	5
	10
	15

以下に記入すること

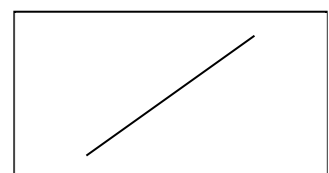
16

20

25

30

【裏面につづく】



以下に記入すること

(2) 解答欄 (30 行)

1

5

10

15

以下に記入すること

16

20

25

30